

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第29週 （7月17日～7月23日）

★お知らせ

○夏型感染症（手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱）に気を付けて

1)手足口病

県全域で警報値(5.00)を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第28週の16.47から第29週では8.43と減少しましたが、6週連続で警報値を超えています。県全域から報告があり、安芸で増加し、中央西、幡多、須崎で急減、高知市、中央東では減少しましたが、全ての保健所管内で警報値を超えており引き続き注意が必要です。

年齢別にみると、1歳が25%と一番多く、2歳18%、3歳16%、0歳13%、4歳9%、10歳以上8%、6～9歳6%、5歳5%と、6歳未満が報告の殆どを占めていますが、6歳以上の報告も増加しています。また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも21例の報告があります。

全国では定点医療機関当たりの報告数は第13週以降増加が続いています。

国内の手足口病由来ウイルスの検出状況は、2017年第1週から第28週までの合計でCA6(Coxsackievirus A6)が56.2%と最も多くなっています。

手足口病は、CA16(Coxsackievirus A16)、EV71(Enterovirus71)さらにCA6などのエンテロウイルスが病因となり、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患です。2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。

通常は3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができます。ほとんどの発病者は数日間のうちに治る病気ですが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。

近年のCA6による手足口病では、従来の手足口病と発疹の出現部位が異なり、水疱は扁平で臍窩（発疹にくぼみがある）を認め、これまでより大きいことや、手足口病発症後、数週間後に爪脱落が起こる症例（爪甲脱落症）も報告されていますが、これらは自然に治るとされています。

<予防対策>

- 接触感染を予防するために大人も子供も手洗いをしっかりすること。（タオルの共有はしない）
- 排泄物を適切に処理し（塩素系漂白剤が消毒効果があります）、しっかりと手洗いすること。
- 治った後も比較的長い間（2～4週間）便中にウイルスが排泄されるため日頃からの手洗いが大切

<手洗いについて>

石けん液を使いよく泡立てて洗い、流水でしっかり流します。指先や爪の間、指の間や親指の周り、手のしわ、手首までしっかりと洗うようにしましょう。

高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2017年第29週）

	今週 第29週		1週前 第28週		2週前 第27週		3週前 第26週		4週前 第25週		5週前 第24週		6週前 第23週		7週前 第22週	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
	高知県全域	8.43	△	16.47	△	19.10	△	15.13	△	11.70	△	7.73	△	4.00	○	2.60
安芸	7.00	△	5.50	△	4.50	○	4.50	○	1.00	-	2.00	○	0.50	-	-	-
中央東	6.29	△	11.00	△	16.86	△	9.57	△	8.86	△	9.00	△	5.00	△	3.57	○
高知市	10.36	△	19.82	△	24.09	△	21.73	△	19.27	△	9.73	△	4.82	○	2.27	○
中央西	9.33	△	20.00	△	13.67	△	11.33	△	10.33	△	9.67	△	7.67	△	3.00	○
須崎	7.00	△	15.50	△	21.50	△	24.00	△	12.00	△	10.00	△	4.00	○	9.00	△
幡多	7.80	△	19.40	△	19.40	△	11.40	△	4.00	○	1.80	-	-	-	0.20	-
全国			8.27	△	5.74	△	3.53	○	2.41	○	2.07	○	1.59	-	1.34	-

注意報値：○（2以上5未満） 警報値：△（5以上）

2)ヘルパンギーナ

定点医療機関当たりの報告数は第28週の2.67から第29週では1.13と急減しています。中央東、安芸、中央西、須崎で急減、幡多、高知市で減少しましたが、幡多では注意報値を超えています。

ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎で、乳幼児を中心に夏季に流行するいわゆる夏かぜの代表的疾患です。2～4日の潜伏期の後、突然の高熱、咽頭痛や咽頭発赤を呈し、口腔内に水疱や発赤が現れます。水疱は破れて痛みも伴います。2～4日で解熱し、通常は7日程度で治癒します。高熱による倦怠感や口腔内の痛みなどから、食事や水分を十分にとれず、脱水になることもあります。合併症としては、熱に伴う熱性けいれんと、まれに髄膜炎や心筋炎が生じることが

あります。頭痛やおう吐、発熱が続く場合は主治医に相談しましょう。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに触れることによって感染（飛まつ・接触感染）するので、一般的な予防対策（手洗い、うがい、咳エチケット等）を心がけることが大切になります。

症状がおさまった後も、2～4週間程度は便などにウイルスが排泄されるため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いを徹底しましょう。

3)咽頭結膜熱

定点医療機関当たりの報告数は第28週の0.43から第29週では0.43と横ばいです。高知市で減少していますが、須崎で急増、幡多で増加し、幡多、須崎で注意報値を超えています。

咽頭結膜熱は、アデノウイルス感染による、発熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎を主症状とする小児に多い疾患で、例年5月中旬から下旬頃にかけて患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークとする流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することがあることから、「プール熱」とも呼ばれています。

感染経路は通常、飛まつ感染または手指を介した接触感染ですが、プールでは眼の結膜からの感染も考えられています。以下のことに気を付け、感染予防に努めましょう。

- 1) 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- 2) 感染者との密接な接触は避けましょう。
- 3) タオル等は別のものを使いましょう。
- 4) プールからあがった時はシャワーをよく浴びましょう。

消毒方法

手指に対して：流水と石けんによる手洗い、および90%エタノール。

器具に対して：煮沸、次亜塩素酸ソーダ（消毒用エタノールでは消毒効果が弱く、逆性石けん、イソプロパノールには抵抗性なので注意）

また、プールを介しての流行はプールの塩素濃度を適正（遊離残留塩素濃度が0.4mg/l～1.0mg/l以下）に維持することが対策になります。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第28週の2.73から第29週では1.57と減少していますが、安芸、幡多で急減、中央東、高知市で減少していますが、須崎で急増しています。

定点医療機関からのホット情報では細菌の病原性大腸菌やカンピロバクター属菌を原因とする胃腸炎7例の報告もあります。

感染性胃腸炎の予防には、手洗いが有効です。帰宅時や調理・食事前、トイレの後には、石けんでよく手を洗い、タオルは共用せず専用のものにしましょう。感染した人の便やおう吐物には、直接触れないよう、使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処分してください。

高温多湿な季節となりました。細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（①つけない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱（85℃で1分以上）は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけて下さい。

○百日咳に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第28週の0.03から第29週では0.03と横ばいです。高知市では急減していますが、中央西で急増し注意報値を超えています。

百日咳は、感染力が強く、軽症でも菌の排出があるため、注意が必要です。特に生後6ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆野外活動の際にはマダニに注意！

第 29 週に日本紅斑熱の発生届けが 2 例ありました。

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で 3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	効力持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※ 国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

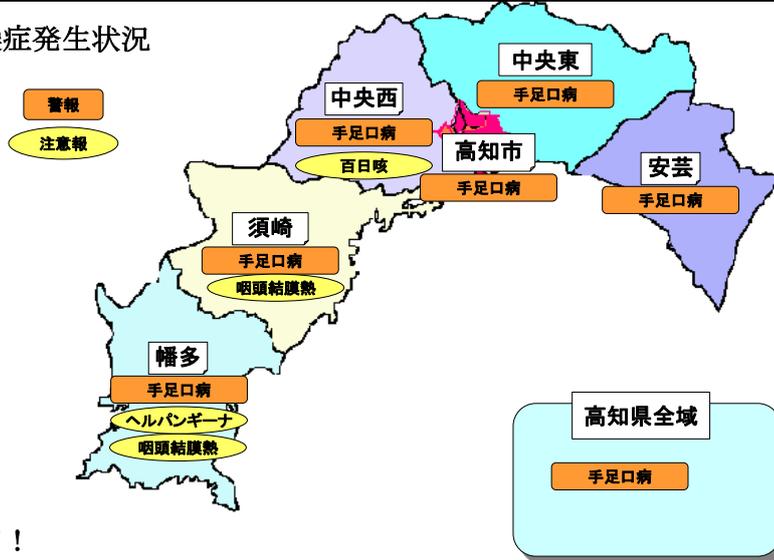
※ 市販の虫よけ剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
 29週（7月17日～7月23日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
手足口病	↘	8.43	安芸で増加していますが、中央西、幡多、須崎で急減、高知市、中央東で減少しています。県全域、全ての保健所管内で警報値を超えています。
感染性胃腸炎	↘	1.57	須崎で急増していますが、安芸、幡多で急減、中央東、高知市で減少しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.23	中央東、須崎で急増していますが、幡多で急減、高知市で減少しています。
ヘルパンギーナ	↓	1.13	中央東、安芸、中央西、須崎で急減、幡多、高知市で減少しています。幡多で注意報値を超えています。
突発性発疹	→	0.53	中央西で急増、須崎で増加していますが、高知市、中央東で減少しています。

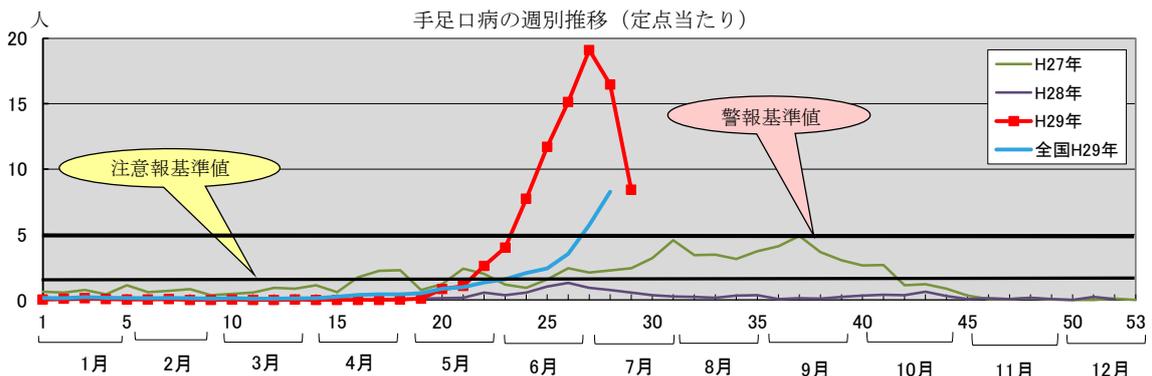
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

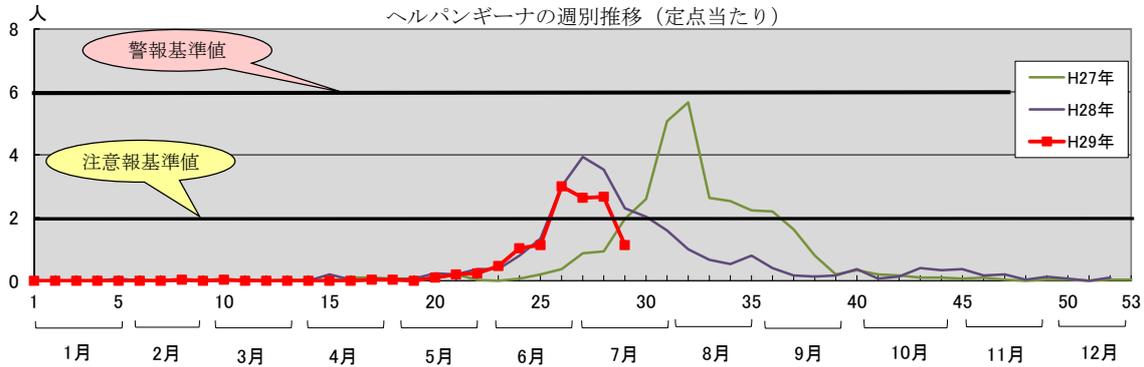
○手足口病 第29週：8.43（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 8.43（前週：16.47）と減少していますが警報値を超えています。安芸 7.00（前週：5.50）で増加していますが、中央西 9.33（前週：20.00）幡多 7.80（前週：19.40）須崎 7.00（前週：15.50）で急減、高知市 10.36（前週：19.82）中央東 6.29（前週：11.00）で減少しています。高知市、中央西、幡多、安芸、須崎、中央東で警報値を超えています。報告を年齢別にみると、81%が4歳以下になっています。



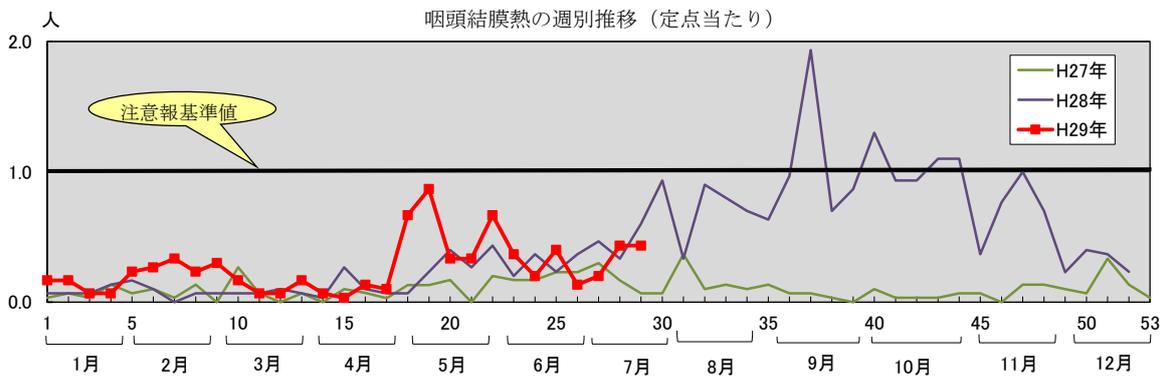
○ヘルパンギーナ 第29週：1.13（注意報値：2.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.13（前週 2.67）と急減しています。中央東 0.71（前週：1.86）安芸 0.50（前週：3.50）中央西 0.33（前週：4.00）須崎 0.00（前週：1.50）で急減、幡多 3.40（前週：6.00）高知市 0.91（前週：1.36）で減少しています。幡多では注意報値を超えています。



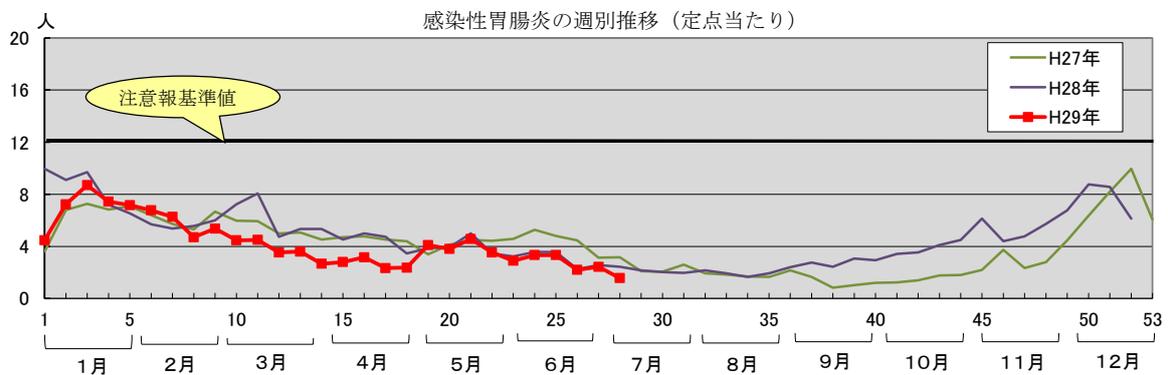
○咽頭結膜熱 第29週：0.43（注意報値：1.00 警報値：3.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.43（前週 0.43）と横ばいです。高知市 0.36（前週：0.64）で減少していますが、須崎 1.00（前週：0.50）で急増、幡多 1.20（前週：0.80）で増加しています。幡多、須崎では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第29週：1.57（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.57（前週：2.73）と減少しています。須崎 2.00（前週：0.50）で急増していますが、安芸 1.00（前週：5.50）幡多 0.20（前週：1.40）で急減、中央東 3.00（前週：4.57）高知市 1.73（前週：2.82）で減少しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H26-H27年とH28-H29年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	51	90歳代 男	中央東
4類	日本紅斑熱	1	5	60歳代 男	高知市
	レジオネラ症	1		60歳代 女	
5類	レジオネラ症	1	3	70歳代 女	須崎
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	15	50歳代 男	高知市

★病原体検出情報

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
28	気管支炎	38℃,咳嗽,気管支炎,	2ヶ月	男	中央東	Parainfluenza virus 3

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	下痢性大腸菌 O-1 と O-25 同時検出 1 例 (2 歳) 手足口病 管内保育園 1 歳児で急増
	野市中央病院小児科	帯状疱疹 1 例 (10 歳女)
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎 1 例 (11 歳) 病原性大腸菌 O-63 腸炎 1 例 (10 歳) 病原性大腸菌 O-18 腸炎 1 例 (10 歳) カンピロバクター腸炎+病原性大腸菌 O-1 腸炎 1 例 (74 歳) アデノウイルス扁桃炎 1 例 (2 歳)
	福井小児科・内科・循環器科	RS ウイルス感染症 1 例 (1 歳女) 手足口病 22 例 ヘルパンギーナ 3 例 溶連菌感染症 5 例
	細木病院小児科	キャンピロ 1 例 (7 歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	手足口病 1 例 (10 ヶ月男:仁淀川町)
	石黒小児科	手足口病 11 例 (男 6 名、女 5 名) ヘルパンギーナ 1 例 (男) プール熱 1 例 (男)
	日高クリニック	帯状疱疹 1 例 (6 歳男)
須崎	もりはた小児科	手足口病の発生が減少傾向になる
幡多	さたけ小児科	帯状疱疹 1 例 (3 歳女) 手足口病 15 例、ヘルパンギーナ 13 例と減少傾向

★全国情報

第 27 号 (7 月 3 日～7 月 9 日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核320例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症71例、腸チフス1例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎3例、エキノコックス症1例、回帰熱1例

重症熱性血小板減少症候群4例、チクングニア熱1例、つつが虫病1例、デング熱4例

日本紅斑熱7例、ボツリヌス症1例、ライム病2例、レジオネラ症41例

5類感染症：アメーバ赤痢12例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症27例

急性脳炎10例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例

後天性免疫不全症候群17例、侵襲性インフルエンザ菌感染症5例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例

侵襲性肺炎球菌感染症20例、水痘（入院例に限る）6例、梅毒81例、

播種性クリプトコックス症1例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例、

風しん2例、麻しん2例

報告遅れ：E型肝炎1例、回帰熱1例、つつが虫病1例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症4例、

レプトスピラ症2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例、急性脳炎6例、

劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒64例、

バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん2例、麻しん1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第29週 平成29年7月17日(月)～平成29年7月23日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第29週							計	前週	全国(28週)	高知県(29週未累計) H29/1/2～H29/7/23	全国(28週未累計) H29/1/2～H29/7/16
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ*	インフルエンザ				1					1 (0.02)	()	994 (0.20)	14,631 (304.81)	1,360,808 (274.86)
小児科	咽頭結核熱				4	1			6	13 (0.43)	13 (0.43)	2,601 (0.83)	230 (7.67)	47,826 (15.13)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				10	19	1	2	5	37 (1.23)	46 (1.53)	7,453 (2.37)	1,719 (57.30)	223,318 (70.63)
	感染性胃腸炎	2	21	19			4		1	47 (1.57)	82 (2.73)	15,292 (4.87)	3,662 (122.07)	535,086 (169.22)
	水痘			1	12					13 (0.43)	12 (0.40)	1,108 (0.35)	388 (12.93)	33,656 (10.64)
	手足口病	14	44	114	28	14			39	253 (8.43)	494 (16.47)	25,968 (8.27)	2,632 (87.73)	97,304 (30.77)
	伝染性紅斑	1	3	1						5 (0.17)	2 (0.07)	345 (0.11)	99 (3.30)	7,509 (2.37)
	突発性発疹		2	6	3	3		2		16 (0.53)	18 (0.60)	1,743 (0.55)	334 (11.13)	40,937 (12.95)
	百日咳					1				1 (0.03)	1 (0.03)	47 (0.01)	20 (0.67)	808 (0.26)
	ヘルパンギーナ	1	5	10	1				17	34 (1.13)	80 (2.67)	7,050 (2.24)	382 (12.73)	24,603 (7.78)
	流行性耳下腺炎									()	1 (0.03)	1,628 (0.52)	158 (5.27)	51,562 (16.31)
RSウイルス感染症				9					9 (0.30)	2 (0.07)	1,778 (0.57)	237 (7.90)	24,583 (7.77)	
眼科	急性出血性結膜炎									()	()	8 (0.01)	()	250 (0.36)
	流行性角結膜炎									()	1 (0.33)	606 (0.88)	11 (3.67)	12,195 (17.57)
基幹	細菌性髄膜炎									()	()	9 (0.02)	2 (0.25)	270 (0.57)
	無菌性髄膜炎									()	()	18 (0.04)	7 (0.88)	465 (0.97)
	マイコプラズマ肺炎									()	1 (0.13)	120 (0.25)	68 (8.50)	4,406 (9.24)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									()	()	1 ()	6 (0.75)	145 (0.30)
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)									()	1 (0.13)	18 (0.04)	86 (10.75)	4,803 (10.07)
計 (小児科定点当たり人数)	18 (9.00)	86 (12.29)	195 (17.70)	35 (11.65)	25 (12.50)	70 (14.00)	429 (14.27)			66,787	24,672 (633.51)	2,470,534		
前週 (小児科定点当たり人数)	29 (14.50)	132 (18.71)	325 (29.37)	75 (24.99)	41 (20.50)	152 (30.40)		754 (25.03)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第29週							計	前週	全国(28週)	高知県(29週未累計) H29/1/2～H29/7/23	全国(28週未累計) H29/1/2～H29/7/16
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ*	インフルエンザ				0.06					0.02		0.20	304.81	274.86
小児科	咽頭結核熱					0.36	0.33	1.00	1.20	0.43	0.43	0.83	7.67	15.13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				1.43	1.73	0.33	1.00	1.00	1.23	1.53	2.37	57.30	70.63
	感染性胃腸炎	1.00	3.00	1.73			2.00	0.20		1.57	2.73	4.87	122.07	169.22
	水痘			0.14	1.09					0.43	0.40	0.35	12.93	10.64
	手足口病	7.00	6.29	10.36	9.33	7.00	7.80			8.43	16.47	8.27	87.73	30.77
	伝染性紅斑	0.50	0.43	0.09						0.17	0.07	0.11	3.30	2.37
	突発性発疹		0.29	0.55	1.00	1.50	0.40			0.53	0.60	0.55	11.13	12.95
	百日咳					0.33				0.03	0.03	0.01	0.67	0.26
	ヘルパンギーナ	0.50	0.71	0.91	0.33				3.40	1.13	2.67	2.24	12.73	7.78
	流行性耳下腺炎										0.03	0.52	5.27	16.31
RSウイルス感染症					0.82					0.30	0.07	7.90	7.77	
眼科	急性出血性結膜炎											0.01		0.36
	流行性角結膜炎										0.33	0.88	3.67	17.57
基幹	細菌性髄膜炎											0.02	0.25	0.57
	無菌性髄膜炎											0.04	0.88	0.97
	マイコプラズマ肺炎										0.13	0.25	8.50	9.24
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)												0.75	0.30
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)										0.13	0.04	10.75	10.07
計 (小児科定点当たり人数)	9.00	12.29	17.70	11.65	12.50	14.00	14.27				633.51			
前週 (小児科定点当たり人数)	14.50	18.71	29.37	24.99	20.50	30.40		25.03						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869